

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 田原口 智士

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

私は、学部では、真菌、大学院ではウイルスと対象は異なるが微生物学を専攻し、大学院を修了後は民間のワクチン会社・国立大学附置研究所・地方国立大学を經由し2008年から獣医学科微生物学研究室に赴任して以来、ウイルス学に関わる教育・研究活動に従事してきた。ウイルス学の習得には、目に見えないウイルスの形態ならびに構造を理解し、その増殖の機序分かる必要がある。ウイルスの基礎知識を十分に付けウイルスとそれに起因する病気を知り、その知識を伝染病や臨床に繋げ、獣医師国家試験に合格できるようにする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
微生物学	動物応用科学科	必須	2	140
微生物学総論	獣医学科	必須	2	140
微生物学各論II(ウイルス)	獣医学科	必須	3	140
微生物学実習	獣医学科	必須	3	140
卒業論文	獣医学科	必須	6	3

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

ウイルス自体は、五界説に分類されず、生物ではない。それが宿主に感染すると自己を複製し増殖するため、あたかも生物のように振る舞います。詳しいウイルスの学習は、多くの学生が初めてであるため、最初は理解し辛いところがあるかもしれません。教科書を眺めているだけでは、その面白さがわからないと思うため、身近なものを例にしたり、最近のウイルス関連のトピックを出したりしながら、興味をもって講義を受けられる様に工夫している。少しでも多くの学生にウイルスの面白さを伝えたい。ウイルスは、個々にその宿主特異性が存在する。そのため、宿主域を理解する必要がある。ウイルスが引き起こす細胞レベルの変化・個体レベルの感染および体内伝播などを学習することで、後に続く公衆衛生学、伝染病学、病理学や内科学などの科目を勉強と関連付け、最終的には、国家試験合格へ結びつけて欲しい。

また、卒業論文では、ウイルスを使用した調査研究を通じ、座学で学んだ知識と技術の定着に力を注いでいる。学生たちが、本学で学んだ知識と技術を実社会でも活かしつつ、問題解決能力を発揮する手助けとなるよう努めている。実社会では、答えが準備されていないことが大半である。そのため、自らその解決方法の探求を行う必要がある。そのためにもウイルスが関連する現象に疑問を持ち、その疑問を解き明かすことを、学生とともに取り組んでいく。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

ウイルス学の内容は、ゲノムを構成している核酸が二本鎖DNAばかりではなく、一本鎖DNAやRNAのものもある。さらにRNAをゲノムに持つものは、二本鎖RNA、一本鎖RNAがある。また、一本鎖RNAにもmRNAとして働く+鎖RNAとmRNAとして働かない-鎖RNAがあるなど、既存の生物学の理解だけでは解決出来ない。従って、教科書を読んでも分かり辛いため、身近なものを例にしたり、最近のウイルス関連のトピックを出すウイルス学の講義・実習を受けることで教科書を読めるようになって欲しい。教科書の内容ばかりだと興味がなくなったり、集中力を維持出来ないと考えていますので、講義や実習時には、教科書以外のネタを仕込んでいる。座学では、スライドばかりの単調な講義ではなく、板書も行うハイブリット講義を行なう。講義の内容は、基本的に教科書に沿って行うため、復習もやりやすくしている。

研究では、まず実践してみる。また、失敗してもその原因を自ら考え、改善することが、自身の成長を高められるきっかけになると考えている。また、学生とのディスカッションを行いやすいよう環境作りをおこなっている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義中に内容について、学生への質問を行っている。

(2) ICTの教育活用

有

學理（LMS）を利用したミニテストや資料を作成している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

教科書には記載されていない現場で起きているトピックスや最近の知見を積極的に入れることで、学生が少しでも興味が出るような対応を心がけている。

（２）学生の理解度の把握

B

毎回、ミニテストを行うことで、学生の理解度の把握に努めている。理解度の悪い内容については、再度復習をしている。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

ミニテストを行うことで、少しは自学自習を促しているとは考えているが、充分ではない可能性も否定できない。

（４）学生とのコミュニケーション

A

講義後やオフィスアワーに、質問の対応を行っている。

（５）双方向授業への工夫

B

講義の合間に、質問を投げ掛けるなどを行い、集中力を途切れさせないようにしている。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

獣医学科学生の最重要な課題である国家試験の受験は、学生にとって非常にストレスになっている。学生への声掛け等を行うなど、必要があれば相談等を行うようにしている。また、成績不良者については、個別で指導を行うこともある。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

学生の授業評価を鑑みて、可能な限り反映するようにしている。スライド等の見難い箇所を修正し、見やすいものに変更している。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

悪いコメントは、減っている。

(3) (2) を踏まえた次年度取組

スライドは、毎年見やすいように修正していく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

卒論研究で出た結果は、学術集会への発表や論文発表できるように促している。やる気のある学生には、どんどん実験・研究ができる環境を作っている。

**(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック**

学術集会での発表数や、論文数に反映できる。また、その発表による質疑応答を行うことで、学生も刺激になっていることが理解出来ている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD活動には、積極的に参加している。グットティーチング賞受賞の教員の講義を聞くことで、取り入れられる内容については積極的に取り入れる様にしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

過去に一度、グッドティーチング賞を頂いた。再度、この賞を頂けるように学生に評価される講義を行いたい。